
	ゼミナール名	ゼミナール I (刑事法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	秋山 栄一		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	刑事法とは何か
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生各々が興味と関心をもった刑事学上の基礎的な論点・テーマについて、個別報告及び皆での検討ができるようになる。</li> <li>・刑事法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地を養う。</li> </ul>
ゼミの概要	本ゼミナールでは、「刑法入門」の講義を前提として、刑法学、刑事訴訟法学および刑事政策学(刑事学)を概観し、刑事法学における基礎的な論点を検討する。ゼミナールの進行については、まず、対話形式で各刑事法の分野の内容を概観する。その後、学生自身が興味・関心をもつテーマを選択し、順次報告・発表していき、皆で検討するという形式を予定している。ただし、後述の授業計画は、学生の理解度、履修状況により、変更されることがある。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象に関心をもつこと。</li> <li>・指定されたテキスト、資料を事前に検討することを怠らないこと (1.5時間程度)。</li> <li>・各々設定したテーマについて、適宜図書館等を活用し、調べ、まとめるために、ゼミナール以外の時間の準備を怠らないこと (1.5時間程度)。</li> </ul>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナールのルールを遵守できること (ルールの例として、報告・発表の遵守、日頃からゼミメンバー同士・秋山とコミュニケーションがとれる、ゼミ行事の参加などのゼミ運営への協力、詳細はゼミにて説明する)。</li> <li>・刑事法学に興味と関心をもっていること。</li> <li>・刑法入門が履修済みであること、刑法総論・各論を履修していること。</li> <li>・必要な予習、復習を必ずできること。</li> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、単位を認定できない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とする。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。</li> </ul>
テキスト	適宜、指示・紹介する。
参考文献・資料	適宜、指示・紹介する。
成績評価の方法	定期試験 40%、報告・発表、姿勢 60%の割合で厳正に評価する。
オフィスアワー	原則として、火曜日 9:00~10:30、水曜日 14:40~16:10 ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。その他時間が空いていれば適宜対応する。
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度 (2016) 以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</li> <li>・平成 27 年度 (2015) 以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</li> </ul>
学生へのメッセージ	ゼミナール I は、学生が本格的に学問を行うためのスタートに立つ準備段階といえます。知的世界の深みの一端をとともに感じるようになるためにも、事前の準備をしっかりと行っていきましょう。また、自分のテーマに興味と関心を持つことは当然のことですが、自分以外のゼミのメンバーのテーマにも関心をもつことが重要です。それが自分のテーマの理解にも役立つことは間違いないからです。ゼミの仲間とともに、多くの楽しみを見つけることもできればと考えています。


授業計画			
第1回	ガイダンス、刑法の基礎	第17回	刑事訴訟法の基礎 刑事手続の流れ①
第2回	構成要件該当性①	第18回	刑事手続の流れ②
第3回	〃 ②	第19回	わが国の刑事訴訟法の特徴
第4回	〃 ③	第20回	犯罪とその原因
第5回	違法性①	第21回	統計と犯罪現象
第6回	〃 ②	第22回	犯罪者の処遇
第7回	責任①	第23回	行刑と更生保護
第8回	〃 ②	第24回	まとめ 学生のテーマの設定の確認
第9回	未遂	第25回	各々のテーマについて学生個別報告・検討1
第10回	共犯①	第26回	〃 2
第11回	〃 ②	第27回	〃 3
第12回	個人的法益に対する罪①	第28回	〃 4
第13回	〃 ②	第29回	〃 5
第14回	社会的法益に対する罪①	第30回	〃 6
第15回	〃 ②	第31回	フィードバック
第16回	国家的法益に対する罪	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (経営学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	李 廷珉 (い ちョンミン)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	企業と社会—社会における企業という視点の重要性を学ぶ—				
ゼミの到達目標	社会の中での企業の役割や責任について理解を深め、その問題点を考えることができる。				
ゼミの概要	<p>企業は真空状態の中で活動しているわけではない。常に社会の一部を構成するステイクホルダーとの相互関係の中で存続している。企業は、一方では、社会を構成するステイクホルダーからさまざまな影響を受けながらも、他方では、そのステイクホルダーに対して影響を及ぼす存在である。しかも、現代では、コンプライアンスや企業倫理、CSR 経営が強調される時代にあり、企業をはじめとするすべての組織を、常に社会との関係の中で複眼的に捉える必要はますます高まってきているといえる。</p> <p>講義では、上記のような問題意識に基づき、企業と社会の問題について、日本の企業経営に関する最新のトピックスと諸外国の企業経営の事例を比較しながら、できるだけ、多角的に企業経営の現状にアプローチしていく。そのことによって、人間が1人で生きられないのと同じように、企業も単独では存在できないという、「社会における企業」、「社会的制度としての企業 (ドラッカー)」という視座の構築を、この講義は目的とする。</p>				
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日頃から新聞とその他の経済紙に目をとおすようにしておくこと。</li> <li>2. 経済・経営専門書だけでなく、文学・哲学・歴史・宗教・生物などの科学関連書を1冊だけ選び、時間をかけてじっくり読んでおくこと。</li> </ol>				
履修条件	経済学と経営学の入門科目、そしてコンピューター入門科目の単位の履修が必要。				
テキスト	佐々木利廣、大室悦賀編著『入門 企業と社会』中央経済社、2015年。				
参考文献・資料	岩井克人、小宮山宏『会社は社会を変えられる—社会問題と事業を〈統合〉する CSR 戦略』プレジデント社、2014年。				
成績評価の方法	受講状態により判断するが、次の2つの目標の達成程度を勘案する。すなわち、履修目標と到達目標の2点である。履修目標とは授業で扱う内容 (授業のねらい) を示す目標であり、到達目標とは授業において最低限学生が身につける内容を示す目標である。				
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00~14:30				
成績評価基準	秀	優	良	可	不可
	履修目標を超えたレベルを達成している。	履修目標を達成している。	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している。	到達目標を達成している。	到達目標を達成できていない。
学生へのメッセージ	<p>私たちのゼミナールでは、毎週報告者による発表を行います。皆がテキストの各章を振り分け、各自分担を決めます。報告に当てられた人は担当の章をレジュメーに作成し、授業の時間に分かりやすく皆に説明し報告します。他の皆はその週の章を必ず事前に読んできて、授業の時間に「質問」をし、報告者を含む皆が議論に参加します。一つのテーマに関して、皆がその意味を解釈し、問題点について論じ合うことが、この授業の目的となっています。</p> <p>また、私たちは、学園祭やソフトボール大会など、大学の行事の多くをゼミナール活動の一環として行っていますが、その際、私たちが大切にしている言葉は「明るく、楽しく、強く」です。この授業は「質実剛健」な人を目指します。「質」は質朴、「実」は誠実の意で、「質実」は飾り気がなく、真面目なこと。「剛健」は心や体が強くたくましいことです。ですから、ゼミナールの皆は、大学での学</p>				


びを通じて、強くたくましい自分になる必要があります。これが私たちのゼミナールの目標です。  
もし私たちのゼミナールに看板を掲げるとすれば、「自分を変えるための法則を見つけるゼミ」とでも言いましょうか。  
勉強は大変難しいかもしれませんが、志のある方ならどなたでも歓迎します。

授業計画			
第1回	企業と社会の見方Ⅰ －企業と社会の関係を考える視点－	第17回	企業と地域・NPOⅠ －NPOとは、定義、他組織との違い－
第2回	企業と社会の見方Ⅱ －企業と社会の関係をどう捉えるか－	第18回	企業と地域・NPOⅡ －NPOの経営資源－
第3回	経営スタイルの変遷Ⅰ －1970年代：株主（経済）資本主義－	第19回	企業と地域・NPOⅢ －NPOと地域活性化：その新たな関係－
第4回	経営スタイルの変遷Ⅱ －1980年代：ステイクホルダー論－	第20回	企業社会の「つながり」と 社会的課題のガバナンスⅠ －企業とステイクホルダーの関係＝全体像－
第5回	経営スタイルの変遷Ⅲ －1990年代：Corporate Social Responsibility CSR：企業の社会的責任－	第21回	企業社会の「つながり」と 社会的課題のガバナンスⅡ －企業とステイクホルダーの関係＝つながり－
第6回	経営スタイルの変遷Ⅳ －2000年代：Social Enterprise/Social Business 社会的企業／社会起業－	第22回	企業社会の「つながり」と 社会的課題のガバナンスⅢ －企業のウチガワとソトガワ －つながりのマネジメント－
第7回	コーポレート・ガバナンスⅠ －議論の発祥：所有と支配の分離－	第23回	企業社会の「つながり」と 社会的課題のガバナンスⅣ －CSR CSV Sustainability New Governance－
第8回	コーポレート・ガバナンスⅡ －日本企業のコーポレート・ガバナンス－	第24回	ソーシャル・ビジネスⅠ －背景と定義－
第9回	コーポレート・ガバナンスⅢ －コーポレート・ガバナンスの新潮流－	第25回	ソーシャル・ビジネスⅡ －ソーシャル・ビジネスの特徴－
第10回	企業と従業員Ⅰ －内部ステイクホルダーとしての従業員－	第26回	ソーシャル・マーケティングⅠ －マーケティングの考え方の進化－
第11回	企業と従業員Ⅱ －日本的雇用慣行、人事制度－	第27回	ソーシャル・マーケティングⅡ －ソーシャル・マーケティングの実際－
第12回	企業と従業員Ⅲ －今日的課題－ワーク・ライフ・バランス－	第28回	ソーシャル・マーケティングⅢ －ソーシャル・マーケティングの今後－
第13回	企業と消費者Ⅰ －消費者はどのような存在か－	第29回	新しい企業社会Ⅰ －複雑化する社会問題とその複雑性－
第14回	企業と消費者Ⅱ －企業と消費者の「信頼」関係－	第30回	新しい企業社会Ⅱ －ソーシャル・ビジネスの模倣と移転－
第15回	企業と消費者Ⅲ －消費者主導の価値創造－価値共創の企業経営－	第31回	新しい企業社会Ⅲ －学習能力－ －ソーシャルマネジメントの開拓（重要性）－
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (行動科学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。
ゼミの概要	前期では、まず教育学に関するテキストを読み、教育学の対象と方法を理解するとともに、教育学研究に貢献する行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。 後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと。
履修条件	特に設けない。ただし、下記の要件を満たさなかった場合、単位の修得を認定しない ● 今年度中に「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認めない。
テキスト	小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会、2012. 岡崎友典・永井聖二〔編著〕『教育学入門－教育を科学するとは－』放送大学教育振興会、2015.
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ・出席回数が規定に満たない場合は定期試験を受験することができない。
オフィスアワー	① 毎週火曜 10:40～12:10 ② 毎週金曜 10:40～12:10
成績評価基準	【平成 27 (2015) 年度以前に入学した学生】 優 (100～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下) 【平成 28 (2016) 年度以前に入学した学生】 秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。


授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（教育学と近接の研究領域）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（教育学の研究対象と研究分野・研究方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	文献講読③（学習行動・学習者理解のための心理学研究（1））	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	文献講読④（学習行動・学習者理解のための心理学研究（2））	第21回	文献講読⑪（学校の組織と文化）
第6回	問題意識の明確化	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	研究テーマの設定	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	研究テーマの報告・グルーピング	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（学習行動・学習者理解のための社会学研究（1））	第25回	文献講読⑫（教育内容と教育方法）
第10回	文献講読⑥（学習行動・学習者理解のための社会学研究（2））	第26回	文献講読⑬（転換期における教育）
第11回	文献講読⑦（教育学の系譜（1））	第27回	文献講読⑭（教育の構造と機能）
第12回	文献講読⑧（教育学の系譜（2））	第28回	文献講読⑮（教育の文化的基礎）
第13回	文献講読⑨（近代社会の成立と学校）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（公教育制度の展開とゆらぎ）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (観光学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	火曜日3時限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	観光学の基礎を実践的に学ぼう
ゼミの概要	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、日本全体が「観光」に大きな関心を寄せています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。しかし、外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか？その部分も重要ではありますが、観光学はもっと深く、面白くて役に立つ学問なのです。1年次に観光論入門の講義で学んだ観光学を実践的に学ぶのが「観光学ゼミナール」です。実践的に観光学を学び、卒業後に観光のプロフェッショナルを目指すためには、フィールドワークの「技」を実践から身につけることも重要です。観光地理や旅行業の資格にチャレンジすることも有効です。ですから、観光学ゼミナールでは、各自の興味・関心をもとに、メンバーと話し合ったうえで研究テーマを決定し、基礎的な観光学のグループ研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」することを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
ゼミの到達目標	実践的に観光学を学ぶ方法の基本を理解することができる。
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに観光論入門 I の単位を履修していること、または今年度履修すること。</li> <li>2. 観光のプロフェッショナルを目指し、観光学を学ぶ意欲があること。</li> <li>3. ゼミ行事(高杉祭、観光行事、球技大会、食事会など)に主体的に参加する意欲があること。</li> <li>4. 無断欠席をしないこと。</li> </ol>
テキスト	竹内正人他 編著『入門 観光学』ミネルヴァ書房 2018年(観光論入門 I で使用したテキスト)
参考文献・資料	ゼミナールの時間に適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・平常点(30%)・行事への参加(20%)・提出物(20%)
オフィスアワー	毎週月曜日 2時限(10:40~12:10) 毎週金曜日 3時限(13:00~14:30)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代「障害者・高齢者の旅行」という研究テーマに出会い、これまで一貫して観光を学び続けています。</p> <p>観光学はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光学を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思えます。</p> <p>その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめ旅行やコンパなどのゼミ行事も、受け身ではなく積極的に参加し一緒に楽しむことのできる学生の履修を希望します。</p>


授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第18回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	観光学の基礎を学ぶ1	第19回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	観光学の基礎を学ぶ2	第20回	データ集計の方法1
第5回	観光学の基礎を学ぶ3	第21回	データ集計の方法2
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第22回	観光学の理論を学ぶ1
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第23回	観光学の理論を学ぶ2
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第24回	観光学の理論を学ぶ3
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第25回	研究課題ディスカッション2-1
第10回	ふりかえりⅠ	第26回	研究課題ディスカッション2-2
第11回	観光フィールドワーク1	第27回	研究課題ディスカッション2-3
第12回	観光フィールドワーク2	第28回	研究課題ディスカッション2-4
第13回	観光フィールドワーク3	第29回	研究発表Ⅰ
第14回	観光フィールドワーク4	第30回	研究発表Ⅱ
第15回	ふりかえりⅡ・反省会	第31回	ふりかえりⅢ・反省会
第16回	前期試験	第32回	後期試験



	ゼミナール名	ゼミナール I (刑法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	刑法の基本判例を読む
ゼミの到達目標	<p>受講者は、本ゼミナールを履修することによって、刑法(総論・各論)に関する基礎的知識に基づいて判例を考察し、以下のことができるようになる。</p> <p>1) 刑法(総論・各論)の主要論点に関する判例・学説の整理・説明 2) 刑法(総論・各論)の主要判例に関する事実の概要と判例の要旨の説明</p>
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、刑法総論および刑法各論全般について扱います。</p> <p>もともと、開講年次の関係から、前期では刑法総論(構成要件・違法・責任・未遂・共犯)に関する論点等を扱うこととし、後期では刑法各論(個人的法益に対する罪を主な範囲とします)に関する判例を扱うこととします。なお、後期については、刑法各論を履修済みであることをふまえて、受講者が個別に選択した判例について報告した上で、参加者全員による議論を行って、刑法各論の理解を深めてもらう予定です。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞等で犯罪と刑罰に関する問題に触れるなどして、刑事法への関心をもつこと。</li> <li>・教科書等を用いて、各回のテーマについてあらかじめ調べる。(予習: 120分)</li> <li>・毎回扱った内容についてレジュメ等を使って振り返ること。(復習: 120分)</li> </ul> <p>なお、後期については、報告担当者は報告内容についてのレジュメを作成し、それ以外の学生は選択されている判例について確認することが予習となる。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法入門の単位を修得済みであること。</li> <li>・刑法各論・刑法総論を同時に履修すること。</li> </ul> <p>なお、上記した条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない者は履修を認めない。</p>
テキスト	山口厚・佐伯仁志『刑法判例百選 I・II [第7版]』有斐閣(2014年)
参考文献・資料	十河太朗ほか『刑法総論判例 50!』『刑法各論判例 50!』有斐閣(2016年・2017年); 山口厚『基本判例に学ぶ刑法総論』『基本判例に学ぶ刑法各論』成文堂(2010・2011); 大塚裕史ほか『基本刑法 I 総論 [第3版]』『基本刑法 II 各論 [第2版]』日本評論社(2019・2018); 西田典之(橋爪隆補訂)『刑法総論 [第3版]』『刑法各論 [第7版]』弘文堂(2019・2018)
成績評価の方法	<p>授業への参加状況(報告・質疑応答など) 60%、定期試験 40%</p> <p>なお、高杉祭等の公開の場での報告会も予定しています。</p>
オフィスアワー	月曜日 14:40~16:10; 水曜日 14:40~16:10
成績評価基準	<p>平成28年度(2016年)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015年)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので(もともと、既述したように、刑法各論・刑法総論を同時に履修しながらのゼミナールであることを考えると、すべての回でこれを維持できるとは思っていません)、積極的な参加(発言)を期待しています。</p> <p>また、これも当然のことを述べることになりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です(なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めないことがあります)。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション[講義の進め方など]	第17回	第1回判例報告①
第2回	因果関係・不作為犯に関する論点探究①	第18回	第1回判例報告②
第3回	因果関係・不作為犯に関する論点探究②	第19回	第1回判例報告③
第4回	因果関係・不作為犯に関する論点探究③	第20回	第1回判例報告④
第5回	緊急行為に関する論点探究①	第21回	第1回判例報告⑤
第6回	緊急行為に関する論点探究②	第22回	まとめ①
第7回	緊急行為に関する論点探究③	第23回	第2回判例報告①
第8回	実質的違法性に関する論点探究（報告会準備を含む）	第24回	第2回判例報告②
第9回	原因において自由な行為に関する論点探究①（報告会準備を含む）	第25回	第2回判例報告③
第10回	原因において自由な行為に関する論点探究②（報告会準備を含む）	第26回	第2回判例報告④
第11回	錯誤に関する論点探究①（報告会準備を含む）	第27回	第2回判例報告⑤
第12回	錯誤に関する論点探究②（報告会準備を含む）	第28回	まとめ②
第13回	共犯に関する論点探究①	第29回	罪数論①
第14回	共犯に関する論点探究②	第30回	罪数論②
第15回	共犯に関する論点探究③	第31回	全体のまとめ
第16回	報告判例の選択；定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (財務会計ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	2年生では全員が日商簿記検定試験3級以上を取得するようにする
ゼミの到達目標	財務会計の概要を理解するとともに、簿記検定試験2級を目指して頑張る
ゼミの概要	日商簿記検定2・3級のテキストを使い実践問題の演習をおこなう
授業時間外の学習	各自の目標に沿って簿記検定試験・FP試験等の勉強を進める。
履修条件	欠席しない。
テキスト	日商簿記検定問題集3級・2級 実教出版
参考文献・資料	桜井久勝著『会計学入門』(日経文庫)
成績評価の方法	授業態度・出欠・学習姿勢・テスト等を参考に総合的に評価する。
オフィスアワー	毎週水曜日4時間目・5時間目
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ルールを守れない学生、楽をしようとする学生は来ないでください。 一生懸命努力する学生は大歓迎です。

授業計画					
第1回	日商簿記検定3級問題演習	仕訳問題①	第17回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記⑥
第2回	日商簿記検定3級問題演習	仕訳問題②	第18回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記⑦
第3回	日商簿記検定3級問題演習	試算表問題①	第19回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記⑧
第4回	日商簿記検定3級問題演習	試算表問題②	第20回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記⑨
第5回	日商簿記検定3級問題演習	精算表問題	第21回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記①
第6回	日商簿記検定3級問題演習	報告書作成問題	第22回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記②
第7回	日商簿記検定3級問題演習	検定問題演習①	第23回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記③
第8回	日商簿記検定3級問題演習	検定問題演習②	第24回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記④
第9回	日商簿記検定3級問題演習	検定問題演習③	第25回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記⑤
第10回	日商簿記検定3級問題演習	検定問題演習④	第26回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記⑥
第11回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記①	第27回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記⑦
第12回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記②	第28回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記⑧
第13回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記③	第29回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記⑨
第14回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記④	第30回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記⑩
第15回	日商簿記検定2級問題演習	商業簿記⑤	第31回	日商簿記検定2級問題演習	工業簿記⑪
第16回	定期試験		第32回	定期試験	

	ゼミナール名	ゼミナール I (外国経済ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	坂元 浩一		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	外国経済を総合的に学ぶ。
ゼミの到達目標	外国経済の基本構造とその土台となる社会や文化をしっかりと理解できるようになります。
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、マクロ経済学や国際経済学の基礎を学びながら、外国の経済を調査・分析していきます。データや情報を収集して分析を進めて、ゼミ内および学部内で発表します。</p> <p>講義形式は、教員のプレゼンと学生のグループワークとなります。グループワークについては、ゼミ内でディベートを行い、またゼミ内でグループに分かれて上記のように発表を行います。</p> <p>世界をリードする欧州の経済を理解するために、その社会や文化をよく知る必要から、講義に対応する月ごとの欧州の行事を取り上げます。</p> <p>積極的に、ゼミ員間の懇親の機会を作ります。</p>
授業時間外の学習	<p>1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度)</p> <p>2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)</p> <p>研究発表会に向けた準備では、より多くの時間を割く必要があります。</p>
履修条件	ミクロ経済学、マクロ経済学、そして国際経済学(坂元担当)を履修していることが望ましいです。未履修の場合、これらの学問分野を自習しながら、本授業を受けてください。
テキスト	なし
参考文献・資料	<p>坂元浩一『教養系の国際経済論—総合理解から次の一歩まで—』(電子書籍)大学教育出版、2012年。</p> <p>坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。</p> <p>坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房、1996年。</p>
成績評価の方法	<p>【レポート(50%)、発表・試験(50%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。</li> <li>授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。</li> </ul>
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30~16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。
成績評価基準	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。外国経済の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。</p> <p>教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると思います。</p>

授業計画			
第1回	自己紹介・ゼミの進め方	第17回	発展途上国経済の現状
第2回	世界経済の現状	第18回	主要な発展途上国の事例
第3回	日本経済の現状	第19回	グループワークの立案（全体構成）
第4回	先進国経済の現状	第20回	グループワークの立案（役割分担）
第5回	発展途上国経済の現状	第21回	基礎データの収集（経済）
第6回	欧州の歴史	第22回	基礎データの収集（経済外の事情）
第7回	欧州の社会と文化	第23回	経済分析（経済事情）
第8回	ディベート大会Ⅰの準備	第24回	経済分析（経済外の事情）
第9回	ディベート大会Ⅰ グループ・リーグ	第25回	中間発表（前半グループ）
第10回	ディベート大会Ⅰ 準決勝、決勝	第26回	中間発表（後半グループ）
第11回	ディベート大会Ⅱの準備	第27回	経済再分析（経済事情）
第12回	ディベート大会Ⅱ グループ・リーグ	第28回	経済再分析（経済外の事情）
第13回	ディベート大会Ⅱ 準決勝、決勝	第29回	最終発表（前半グループ）
第14回	国別経済分析の基本	第30回	最終発表（後半グループ）
第15回	国別経済分析の応用	第31回	追加のエクササイズ（ディベートなど）
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験


	ゼミナール名	ゼミナール I (安全保障論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	安全保障について学び、問題点を発見する。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件 (住民・領土・政府・外交能力) を理解している。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を理解している。</li> <li>3 防衛政策の基本 (専守防衛)、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を理解している。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて理解している。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。後半は、各自が興味を持ったテーマについて報告を行い、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。</li> <li>・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。</li> </ul> <p>(予習 2時間程度、復習2時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 統治機構または政治学の単位を修得済みであること。</li> <li>2 討議に参加できること。</li> </ol>
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書 (平成 30 年度版)、外交青書 (平成 30 年度版)、田村重信等『日本の防衛法制』(内外出版)、同『日本の防衛政策』(内外出版)、森本敏『日本の安全保障』(実務教育出版)、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、防衛研究所編『東アジア戦略概観 2018』(the Japan times)
成績評価の方法	授業への参加状況 (報告・質疑応答など) 50%、レポート 50%
オフィスアワー	月曜日 09:00~10:30・水曜日 14:40~16:10
成績評価基準	<p>平成28年度 (2016) 以降入学した学生 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p> <p>平成27年度 (2015) 以前に入学した学生 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。</p> <p>学生の関心が早期に定まり、研究発表に入ることができるようにするため、前半はこれまで体</p>

系的に学んだことがない学生もいることを前提に授業を進めます。  
 後期では、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。


授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障の意義	第17回	学生による発表① 討議
第2回	面接 国家の成立要件、領域	第18回	学生による発表② 討議
第3回	領土問題	第19回	学生による発表③ 討議
第4回	防衛政策の基本①	第20回	トピック・まとめ
第5回	防衛政策の基本②	第21回	学生による発表④ 討議
第6回	防衛政策の方針	第22回	学生による発表⑤ 討議
第7回	政策決定機関	第23回	学生による発表⑥ 討議
第8回	治安維持と防衛の差異	第24回	トピック・まとめ
第9回	緊急事態対処時の行動及び権限	第25回	学生による発表⑦ 討議
第10回	武力攻撃事態における法体系	第26回	学生による発表⑧ 討議
第11回	国民保護法	第27回	学生による発表⑨ 討議
第12回	国際連合の主要機関及び役割	第28回	トピック・まとめ
第13回	紛争の平和的解決手段	第29回	学生による発表⑩ 討議
第14回	地域的安全保障体制	第30回	学生による発表⑪ 討議
第15回	国際平和協力活動	第31回	全体のまとめ
第16回	前期のまとめ		



	ゼミナール名	ゼミナール I (憲法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 寛稔		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	憲法の基本
ゼミの到達目標	定評あるテキストの内容を理解した上で、憲法問題について議論できる。
ゼミの概要	前半・中半は1年次に学んだ憲法のテキストの総点検をします。後半ではゼミナール発表会に向けた研究をします。
授業時間外の学習	1. 発表者は資料収集・レジュメの作成・発表の練習に10時間程度かけること 2. 発表者以外の人も議論や質問ができるよう教科書を熟読すること (1.5時間) 3. ゼミで勉強したことについて問題演習をすること (1.0時間程度)
履修条件	①憲法入門の単位を修得済みであること。 ②担当教員から電話等があった場合には必ず反応すること。 ③ゼミのメンバー構成がいかなるものになろうとゼミや大学行事に積極的に参加し、みんなと仲良くすること。 ④常に整容を心がけること。
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法 (第7版)』(岩波書店 2018年) *第6版を持っている方は新規に購入する必要はありません。
参考文献・資料	憲法判例百選 I・II
成績評価の方法	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	月曜日1限、火曜日2限
成績評価基準	【討論への参加などゼミへの貢献度40%、発表20%、定期試験20%】 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
学生へのメッセージ	憲法は国の最高法規であり、皆さんが享受している自由の基礎になるルールです。 様々な人々が共生するためには憲法の知識は不可欠です。 また、憲法は、司法試験や公務員試験に必ず出題されます。そして勉強すれば確実に得点に結びつけることができる科目ですので司法試験や公務員に挑戦したい学生は是非履修してください。

授業計画			
第1回	ゼミナール説明	第17回	職業選択の自由
第2回	ゼミナール説明	第18回	財産権の保障
第3回	顔合わせ、自己紹介	第19回	人身の自由—被疑者の権利・被告人の権利
第4回	憲法とは何か	第20回	参政権
第5回	国民主権・天皇制	第21回	社会権
第6回	人権の享有主体	第22回	国会の地位
第7回	私人間における人権保障	第23回	国会議員の特権
第8回	包括的人権	第24回	内閣
第9回	法の下での平等 基礎理論	第25回	議院内閣制
第10回	法の下での平等 判例研究	第26回	裁判所
第11回	思想・良心の自由	第27回	違憲審査制
第12回	信教の自由	第28回	地方自治
第13回	学問の自由	第29回	ゼミナール発表会練習
第14回	表現の自由—報道の自由	第30回	ゼミナール発表会練習
第15回	表現の自由—「良くない」表現の制約の限界	第31回	定期試験
第16回	前期総括	第32回	

	ゼミナール名	ゼミナール I (社会心理学)		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純 (たきざわ じゅん)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	社会心理学に関して、自分にとって新しい知識を得るための方法を学ぶ。
ゼミの到達目標	社会、人間、動物に関する心理について、検証するための考え方や方法論の理解ができるようになる。そのために、研究を実施できるようになる。最終的に、心についての科学的思考力を身につけてほしい。
ゼミの概要	<p>近年、心理学は他の学問に大きな影響を与えている。経済学ならば行動経済学、法学ならば法心理学や犯罪心理学、観光学ならば観光心理学が盛んである。しかし、世の中のほとんどの人には、心理学の根本が理解されていない。心理学の根本とは「心について検証するための視点と方法」である。</p> <p>そこで、このゼミでは心理学の根本を知る。前期は心理学の実験を体験し、実験結果を分析し、1200字程度のレポートを作成する。後期は自身の興味に基づいて調査を実施し、調査結果の統計的な分析、発表資料の作成、口頭によるプレゼンテーションを行う。</p>
授業時間外の学習	ゼミの後には紹介された参考資料を読み (1.0時間程度)、復習をすること (1.0時間程度)。次のゼミの準備のため、課題や発表資料作成に取り組むことが必要である (2.0時間程度)。
履修条件	<p>以下の①と②をとともに満たすことが必要である。</p> <p>①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、人間行動学、学生生活入門Ⅱの4科目」から1科目以上の単位が取得済みであること</p> <p>②ゼミの第1回か第2回に出席すること。両方欠席する場合は瀧澤まで事前に連絡すること</p>
テキスト	使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探さなければならない。
参考文献・資料	Nolen-Hoeksema ほか (著) 『ヒルガードの心理学 第16版』 (ブレーン出版, 2015年)
成績評価の方法	定期試験 40%、提出物と発表の内容評価 40%、取り組み姿勢 20%の割合で評価する。事前連絡なしでの欠席は認めない。各種発表会への出席により加点する場合がある。
オフィスアワー	月曜日の3時限 (13:00 から 14:30)、金曜日の2時限 (10:40 から 12:10)
成績評価基準	<p>平成 28 (2016) 年度以降入学した学生 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p> <p>平成 27 (2015) 年度以前に入学した学生 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>心理学における究極の学びは、本などから知識を得ることではありません。心理学の視点や方法を用いて実際に検証し、発信することです。発信する側になることで、自分の理解不足に気がきます。レポート・資料・論文を作成して発信することで、頭だけで考えるよりも論理的に考えることができます。なにより、検証するためには教員や仲間とコミュニケーションをしながら、よりよい方法を模索する必要があります。ゼミ内でもゼミ外でも、人間関係を大事にして学んでください。</p> <p>教員の専門分野は社会心理学です。そのほか、心理学全般、認知科学、言語学、人間科学、人間関係学にも関心があります。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス、教員の研究紹介	第17回	調査の作成①：夏休み課題の発表
第2回	心理学の概要：よい研究とは	第18回	調査の作成②：質問項目の考案
第3回	連絡グループ作成、実験の体験	第19回	調査の作成③：質問項目の改善
第4回	実験の体験、実験チーム作り	第20回	調査の作成④：質問項目の調整、結果の予想
第5回	実験チーム決定	第21回	調査の作成⑤：質問項目の統合
第6回	実験の準備	第22回	調査の作成⑥：印刷と実施
第7回	実験の実施①：前半組	第23回	データ入力
第8回	実験の実施②：後半組	第24回	度数分布表、平均値の算出
第9回	実験の実施③：後半組	第25回	データ分析①：除外するデータ、群分け
第10回	データ入力、データ統合	第26回	データ分析②：平均値、標準偏差
第11回	データ分析①：平均値、標準偏差	第27回	データ分析③：図表の作成
第12回	データ分析②：図表の作成	第28回	発表資料作成①：画面で見せる資料
第13回	レポートの作成①：問題と目的	第29回	発表資料作成②：紙で配る資料
第14回	レポートの作成②：方法	第30回	報告会①：前半組
第15回	レポートの作成③：結果と考察	第31回	報告会②：前半組
第16回	前期のまとめ、ゼミ調査のテーマ相談	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (情報システム管理論ゼミナール I)		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群 (第 1 グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1 限	単位数	2 単位

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. グループによる調査・研究・発表を通して、チームワークやコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身に付く。 3. 情報リテラシー能力が身に付く。
ゼミの概要	IT関連の著名な人間をテーマに、コンピュータの歴史と当時の開発現場での人間模様や背景を学びます。IT関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。
授業時間外の学習	情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。 多くのソフトウェアを使いこなす。
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術 I を修得している学生が望ましい。 適宜資料を配布しますが、欠席した学生は配布資料の有無を確認し、研究室まで取りに来てください。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	講義中に実施する実践的課題 30% (知識問題・実技問題・レポート)、グループ調査研究 30%、試験 40% により判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	毎週 金曜日 10:40~12:10 これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	平成 28 年度 (2016) 以降入学した学生 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下) 平成 27 年度 (2015) 以前入学した学生 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	パソコンを今まで操作したことがない学生にも対応できるベルから学習しますが、油断せずに、遅刻は厳禁です。大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考える。


授業計画		
第1回	ゼミナールの概論	第17回 調査研究のための概要 (グループ分けとテーマ説明) I T活用能力の習得⑥ (模擬試験6)
第2回	情報やI T関連の資格取得について	第18回 I T活用能力の習得⑦ (模擬試験7) 最新情報及びI T技術の調査研究班決め 秋田県の諸問題班決め
第3回	ビルゲイツとマイクロソフトについて (ビデオ視聴)	第19回 I T活用能力の習得⑧ (模擬試験8) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)
第4回	ビルゲイツとマイクロソフトについて (ビルゲイツの歩んだ道の解説)	第20回 I T活用能力の習得⑨ (模擬試験9) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)
第5回	スティーブジョブズとアップルについて (ビデオ視聴、 スティーブジョブズの歩んだ道の解説)	第21回 I T活用能力の習得⑩ (模擬試験10) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備)
第6回	コンピュータ業界の時代背景について	第22回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第7回	パソコン黎明期の時代背景と人間模様	第23回 ゼミ内各研究中間発表会
第8回	情報処理技術の基礎知識の習得① (日商P C検定3試験共通の知識科目について)	第24回 I T活用能力の習得⑪ (模擬試験11) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良)
第9回	情報処理技術の基礎知識の習得② (日商P C検定文書作成試験及びデータ活用試験 の知識科目について)	第25回 I T活用能力の習得⑫ (模擬試験12) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良)
第10回	情報処理技術の基礎知識の習得③ (日商P C検定スライド作成試験の 知識科目について)	第26回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 本番発表準備
第11回	I T活用能力の習得① (文書作成実技試験対策 模擬試験1と解説)	第27回 ゼミ内各研究発表会
第12回	I T活用能力の習得② (文書作成実技試験対策 模擬試験2と解説)	第28回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第13回	I T活用能力の習得③ (データ活用実技試験対策 模擬試験3と解説)	第29回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第14回	I T活用能力の習得④ (データ活用実技試験対策 模擬試験4と解説)	第30回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第15回	I T活用能力の習得⑤ (データ活用実技試験対策 模擬試験5と解説)	第31回 1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回 後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (人間科学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児 (にしまき じょうじ)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	「人間」って何? —経済活動をする「人間」とは—
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は社会生活の中で、なにをどのように考えればよいのか、その思考の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。</li> <li>・人間のあり方をみずから考えるという、思考法を身につけることができる。</li> </ul>
ゼミの概要	<p>「自分ってなんだろう?」、「よく生きるためにはどうすればよいのだろうか?」・・・、結局のところ「人間とはなんだろう?」。あなたもこれに類似する事柄を、少なからず考えたことがあるのではないだろうか。実は、このような問いは古代から考えられており、現在までさまざまな答えが提示されてきた。人間の本質を労働と捉え、経済の仕組みが人間のものの見方や考え方を決めたとみなした例もあった。</p> <p>人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。</p> <p>このゼミでは、その中でも、「知ること」を中心にして、古代から考えられてきた「人間のあり方」についての思索の道をたどり、「人間の存在」の諸問題を一緒に考えていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくること。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくることが義務づけられる。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	『ソクラテスの弁明』プラトン 岩波文庫 『方法序説』デカルト 岩波文庫
成績評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出するリアクションペーパーによる理解度(20%)、発表時の内容(30%)と、定期試験(50%)を総合して、最終的な評価をください。出席回数が規定に満たない場合は、試験を受けることができない。また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。
オフィスアワー	月曜日 10:40~12:10、火曜日 10:40~12:10
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。


授業計画			
第1回	ガイダンス：ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	人間のあり方と経済活動の一例：マルクスが考えた人間像	第18回	キリスト教の誕生と展開：信仰と知の分離
第3回	人間とは？：＜私＞は何を知ることができるのか	第19回	近世の自然観：科学革命の誕生
第4回	客観とは？：ありのままの姿を考える	第20回	近世の合理的精神：デカルトのコギト
第5回	無知の知とは？：ソクラテスのフィロソフィア	第21回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(1)
第6回	存在の探求とは？(1)：プラトンのイデア論	第22回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(2)
第7回	存在の探求とは？(2)：アリストテレスの世界観	第23回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(3)
第8回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間とビジネス(1)	第24回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(4)
第9回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間とビジネス(2)	第25回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(5)
第10回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間とビジネス(3)	第26回	理性への反省(1)：カントの人間観
第11回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間とビジネス(4)	第27回	理性への反省(2)：カントの世界観
第12回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間とビジネス(5)	第28回	人間社会変革の思想：実証主義と進化思想
第13回	人間のあり方とビジネスに関するディスカッション	第29回	近代市民社会批判：マルクス、エンゲルスの思想
第14回	レポートを書くための準備：文献の探し方、文献注記の書き方など	第30回	近代の人間観の問い直し：実存思想
第15回	まとめ	第31回	まとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験



	ゼミナール名	ゼミナール I (表現文化ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	橋元 志保 (はしもと しほ)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	火曜日3限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	大学生にふさわしい教養を身につけるために、日本やイギリスを中心に様々な文化の歴史や特色について学び、更にそれを考察し、論理的に表現できるようになる。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本やイギリスの文学作品に触れ、その評論を味わい、理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や絵画、建築といった芸術を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に、講読を行い、評論や論文も読めるような読解力・思考力を涵養します。そして、学んだことや考えたことを自分の言葉で論理的に語れるように、プレゼンテーションの訓練も行います。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう (1時間程度)。 2. 前期・後期ともグループワークによるプレゼンテーションを行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を必ず行うこと (1~2時間程度)。 3. ゼミで紹介した文学作品や評論を読むことを推奨します (1~2時間程度)。
履修条件	昨年度「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」のいずれかの科目を履修して単位を修得し、かつ前期の履修登録期間中に面談し履修を認めた者。 なお、ゼミの課題や大学行事に真面目に取り組む姿勢が求められます。授業時やその他の時間にセクシャル・ハラスメント等に該当するような言動が見られる学生の履修は絶対に認めません。
テキスト	授業時に資料を配布します。山口佳紀ほか校注・訳『日本古典文学全集1 古事記』(小学館) シェイクスピア著・平井正穂訳『ロミオとジュリエット』(岩波書店) 他
参考文献・資料	梅原 猛『日本文化論』(講談社学術文庫)・シェイクスピア著 中野好夫ほか訳『筑摩世界文学大系16 シェイクスピアI』青木 保『異文化理解』(岩波書店) 他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢 (25%)、課題の提出 (25%)、定期試験 (50%)】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。 3. 講義中に無許可で退出した場合は、欠席とします。
オフィスアワー	水曜日 14:40~16:10 木曜日 14:30~16:10 ※これ以外の時間は、事前に予約してください。
成績評価基準	平成 28 (2016) 年度以降に入学した学生 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下) 平成 27 (2015) 年度以前に入学した学生 優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下)
学生へのメッセージ	日本や海外の世界遺産を中心に、様々な文化の歴史や特色、異文化理解等について学んでいきます。また、日本やイギリスの文学作品に触れながら、評論や論文の読解、プレゼンテーションの基礎も身につけていきましょう。映画化された文学作品を見たり、仲間と語り合いながら、楽しく大学生としての教養を養いましょう。

授業計画			
第1回	表現文化とは何か 世界遺産と日本の文化・文学	第17回	イギリスの歴史と文化 イギリス・ルネッサンスの時代
第2回	世界遺産と日本の文化 「富士山 信仰の対象と芸術の源泉」ほか	第18回	イギリスの歴史と文学 シェイクスピアの生涯と文学
第3回	世界遺産と日本の文化 記紀神話と伊勢神宮・出雲大社ほか	第19回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』を読む①物語の背景
第4回	世界遺産と日本文化 宗像三女神と「神宿る島」宗像・沖ノ島ほか	第20回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』を読む②登場人物たち
第5回	世界遺産と日本の文学 厳島神社と『平家物語』	第21回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』を読む③悲喜劇の構造
第6回	世界遺産と日本の文学 平泉と仏教文化	第22回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』に見る表現文化
第7回	世界遺産と日本の近代 明治日本の産業革命遺産ほか	第23回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』に見る映像文化
第8回	日本の近代と文化 『海賊と呼ばれた男』に見る表現文化	第24回	シェイクスピア シェイクスピアの文学に関する論文の講読
第9回	日本の近代と文化 『海賊と呼ばれた男』に見る映像文化	第25回	グループ・ディスカッション コミュニケーション能力を高めよう
第10回	プレゼンテーションについて学ぼう① パワーポイントの作成について	第26回	グループワークによるプレゼンテーション③ 発表・質疑応答・講評ほか
第11回	プレゼンテーションについて学ぼう② 発表の構成・方法について	第27回	グループワークによるプレゼンテーション④ 発表・質疑応答・講評・論文紹介ほか
第12回	グループワークによるプレゼンテーション① 発表・質疑応答・講評ほか	第28回	イギリスの文化に関する文献の講読
第13回	グループワークによるプレゼンテーション② 発表・質疑応答・講評・評論紹介ほか	第29回	異文化理解に関する文献の講読
第14回	日本の文化に関する文献の講読	第30回	論理的に表現する方法を学ぼう
第15回	日本の文学に関する論文の講読	第31回	<総括>文化を理解することの意義について
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	経済理論・計量経済学ゼミナール I		
	ゼミ担当者名	畠山 光史		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	経済理論および計量経済分析を学習するゼミナールです。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は、経済理論および計量経済学の知識を習得し、それらを用いて現実経済を分析できる。</li> <li>2. 学生は、論理的思考力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につけることができる。</li> </ol>
ゼミの概要	ゼミナールIでは、テキストを利用してマクロ経済学と計量経済学の基礎について学習し、理論の理解の上に実証分析能力を身につけます。さらには、経済数学の学習や複数回のレポート作成を行うことによって、論理的思考力および表現力を身につけます。
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業前には、教科書の該当箇所必ず目を通し、質問内容を考えてください(1.5時間程度)。</li> <li>2. 授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください(1.5時間程度)。</li> </ol>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学入門、現代経済入門、ミクロ経済学I、マクロ経済学Iの単位をすでに修得しており、基礎数学I・II、統計学の単位修得済か必ず同時履修すること。</li> <li>2. 輪読・発表・レポート作成などに積極的に参画すること。</li> </ol>
テキスト	ブランシャール「マクロ経済学(上)」東洋経済新報社(1999) ※上巻であることに注意。 白砂堤津耶「初歩からの計量経済学(第2版)」日本評論社(2007)
参考文献・資料	長沼伸一郎(2016a)『経済数学の直観的方法—マクロ経済学編』、講談社ブルーバックス、講談社。 長沼伸一郎(2016b)『経済数学の直観的方法—確率統計編』、講談社ブルーバックス、講談社。 Blanchard, Olivier(2009) <i>Macroeconomics: Fifth Edition</i> , Prentice Hall, New Jersey.
成績評価の方法	発表(30%)、質疑応答(20%)、レポート(50%)で総合評価。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同様に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。
成績評価基準	2016年以降に入学した学生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	演習科目は、授業前後の予習・復習を行うとともに、授業に積極的に参加することが重要です。経済理論、計量経済学、経済数学を学べば論理的思考力が身に付きます。

授業計画			
第1回	前期ガイダンス	第17回	後期ガイダンス, 後期の発表者割当
第2回	発表資料の作成方法, 前期の発表者割当	第18回	計量経済学 1(計量経済学という学問)
第3回	マクロ経済学 1(世界経済の概観)	第19回	計量経済学 2(平均、分散、相関係数)
第4回	マクロ経済学 2(GDP)	第20回	計量経済学 3(ジニ係数、寄与率、物価指数)
第5回	マクロ経済学 3(財市場)	第21回	計量経済学 4(単純回帰モデル: 最小二乗法)
第6回	マクロ経済学 4(金融市場)	第22回	計量経済学 5(単純回帰モデル: 決定係数)
第7回	マクロ経済学 5(IS-LM モデル)	第23回	計量経済学 6(重回帰モデル: 重回帰分析の考え方)
第8回	マクロ経済学 6(期待の考え方)	第24回	計量経済学 7(重回帰モデル: 自由度修正済決定係数)
第9回	マクロ経済学 7(期待, 消費および投資)	第25回	計量経済学 8(系列相関)
第10回	マクロ経済学 8(金融市場と期待)	第26回	計量経済学 9(回帰モデルの仮説検定と予測)
第11回	マクロ経済学 9(期待, 政策および産出量)	第27回	計量経済学 10(ダミー変数)
第12回	マクロ経済学 10(財市場と金融市場の開放性)	第28回	計量経済学 11(系列相関)
第13回	マクロ経済学 11(開放経済における財市場)	第29回	計量経済学 12(連立方程式モデル)
第14回	マクロ経済学 12(産出量, 利子率, 為替レート)	第30回	計量経済学 13(産業連関分析)
第15回	中間レポート 1(学生による発表)	第31回	期末レポート 1(学生による発表)
第16回	中間レポート 2(教員によるフィードバック)	第32回	期末レポート 2(教員によるフィードバック)

	ゼミナール名	環境学ゼミナール I		
	ゼミ担当者名	村中 孝司 (むらなか たかし)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	1. 自然風景の環境価値を評価するしくみと問題点を考える。 2. 食と農林漁業の視点から環境問題を考える。
ゼミの到達目標	農と食に関する問題、エネルギー問題、生物多様性に関する問題など、多様な視点から環境問題に関するテーマを調査・議論し、環境に対する理解を深めます。ゼミは学生の皆さんが作りあげることが基本と考えていますので、教員が教壇に立って講義を行うことはあまりありません。他のメンバーの発表をよく聴き、学び、質問や意見を述べる力を養ってください。また、メンバー相互の議論によって知恵と理解力を高め、教員に立ち向かってほしいと思っています。
ゼミの概要	環境学ゼミナールでは、地球環境の保全を、自然環境と人間社会の双方の立場から考え、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。さまざまな情報を収集、分析し、自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、環境学ゼミナールでは、フィールドワーク (野外調査) を重視しています。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。フィールドワークによって自然界や社会における観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。 ゼミの内容は、①専門書輪読、②研究活動の2つです。毎週1回のゼミの時間帯には、輪読や研究に沿った発表と議論を中心に行います。①輪読では、環境、農業、自然科学などの基本的知識と考え方を身につける勉強を行います。2年生のゼミでは、新山陽子著『フードシステムと日本農業』をメンバー全員で読み、内容を理解します。農業経営の仕組みから食生活、外食産業、食品の流通と安全性まで幅広く農業を捉えた教科書です。また、②研究活動では、複数のメンバーによって1つのテーマを決め、相互に協力しながら研究を行います。また、自主研究テーマを各自で設定し、年度末までに研究レポートを作成します。なお、自主研究のテーマは、環境、食、農林漁業、生物多様性、自然風景などから各人が関心のあるテーマを、教員と相談しながら見つけることから始まります。これは、卒業論文として完成させるための準備です。2年生のゼミは、研究のスタートラインと位置づけますので、1年間をかけて研究テーマを見つけてください。
授業時間外の学習	図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。また、環境学ゼミナールでは、ゼミナールの時間帯以外にもゼミを行う場合があることを留意ください。
履修条件	次の①～③の条件のうち、いずれか1つ以上を満たす者とします。 ① 自然科学概論Ⅱを履修済みの者 ② 自然科学概論Ⅰ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、教養推理Ⅰ・Ⅱ、地球環境学、地域フィールドワークの中から、2科目4単位以上を履修済みの者 ③ 2019年度までに自然科学概論Ⅰ・Ⅱを履修見込みの者
テキスト	新山陽子『フードシステムと日本農業』(放送大学教材) または、岸根順一郎・大森聡一『自然科学はじめの一步』(放送大学教材)
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	① 輪読 (30%)、自主研究およびゼミナール全体での共同研究 (50%)、試験・提出物 (20%) ② ①に対してそれぞれ、発表 (50%)、他者への質問・コメント・意見・議論等 (50%) ③ 研究の成果は、12月または2月の発表会で発表してもらいます。
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10、水曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。ゼミナール研修会 (夏期) は、白神山地十二湖へ日帰りで行く予定です。

授業計画（環境学ゼミナールⅠ）			
第1回	ガイダンス ゼミナールでの取組概要、教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	後期ガイダンス 目標達成度の確認
第2回	フィールドワーク① 自然・社会現象を観察する	第18回	フィールドワーク⑤ 調査の実践
第3回	フィールドワーク② 自然現象を記録する 観察記録の方法	第19回	輪読⑨ 「第9章 消費者の食品選択行動と市場」
第4回	フィールドワーク③ 資料や文献に学ぶ 図書館や論文調査の方法	第20回	輪読⑩ 「第10章 食品の価格と品質の調整システム」
第5回	輪読① 「第1章 フードシステムをどのようにとらえるか」	第21回	輪読⑪ 「第11章 食品の安全、信頼の確保とその考え方」
第6回	輪読② 「第2章 農業の展開と産業構造」	第22回	フィールドワーク⑥ 観察力の育成
第7回	フィールドワーク④ 自然・社会現象から問題を見出す 野外調査の方法	第23回	輪読⑫ 「第12章 食品廃棄と食品産業、消費者の行動」
第8回	輪読③ 「第3章 農業経営体の多様化と企業形態」	第24回	輪読⑬ 「第13章 食生活と健康、食文化」
第9回	輪読④ 「第4章 農業経営の存続と市場」	第25回	研究③ 中間報告
第10回	輪読⑤ 「第5章 農産物・食品卸売業の展開と産業構造」	第26回	輪読⑭ 「第14章 食料の貿易と日本農業、日本の食」
第11回	研究① 自主研究レポートについて レポート・論文の執筆手順と方法	第27回	研究④ ゼミナール共同研究に関する論文指導
第12回	輪読⑥ 「第6章 食品製造業の展開と産業構造」	第28回	輪読⑮ 「第15章 世界の農業・食料の制度と政策」
第13回	輪読⑦ 「第7章 外食産業の現状とこれから」	第29回	自主研究⑤ 自主研究成果報告（グループA）
第14回	輪読⑧ 「第8章 食品小売業の現状と日本農業、日本の食」	第30回	自主研究⑥ 自主研究成果報告（グループB）
第15回	研究② ゼミナール共同研究について	第31回	自主研究⑦ 自主研究成果報告（グループC）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールI (キャリアプランニングI)		
	ゼミ担当者名	横田 恵三郎		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	火曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	キャリアプランニングの基礎を学び、その考え方と重要性を理解した上で観光業界の企業、職種を把握したうえで、プランニングを立てることが出来る。
ゼミの到達目標	観光企業の中での就職先の方向性を得ることが出来る。
ゼミの概要	充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリアプランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ3年生後期に向け、実際に目標と計画を立て、就職先として観光企業を選択する動機付けを得ることを目的とする。
授業時間外の学習	観光企業やその業界について日々情報の収集にあたること。
履修条件	今年度の観光インターンシップを履修する学生でかつホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光関連企業に進路を定めようとイメージしている者
テキスト	その都度プリントを配付する。
参考文献・資料	その都度案内する。
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢・態度 50%とし総合的に評価する。
オフィスアワー	水曜日：9:00-11:30、木曜日：9:00-11:30
成績評価基準	2016年度以降入学の学生：秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 2015年度以前に入学の学生：優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	一口に観光企業と言ってもホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等たくさんの業界、企業があります。また、職種もいろいろあります。それらの調査、研究を行なった上で、自己分析を繰り返し、1年間をかけて進むべき方向性を得て欲しいと思っています。

授業計画			
第1回	オリエンテーション① (トライアル参加) キャリアプランニングとは	第17回	グループワーク演習①
第2回	オリエンテーション②(トライアル参加) キャリアプランニングとは 個人面談	第18回	グループワーク演習②
第3回	自己紹介 個人面談	第19回	グループワーク演習③
第4回	就職試験の種類と概要	第20回	観光企業担当者の講話①、レポート作成
第5回	観光にはどんな業界や企業があるか	第21回	レポートの発表とディスカッション
第6回	業界・企業 研究発表①	第22回	キャリアプランニング演習①
第7回	業界・企業 研究発表②	第23回	キャリアプランニング演習②
第8回	自己分析、これまでの振り返り	第24回	敬語の使い方
第9回	自己分析に基づく自己PRの作成演習	第25回	ビジネスマナー①
第10回	先輩の昨年度インターンシップ体験談 レポート作成	第26回	ビジネスマナー②
第11回	レポートの発表とディスカッション	第27回	就職筆記試験演習① 一般・SPI
第12回	自己紹介書の作成演習	第28回	就職筆記試験演習② 一般・SPI
第13回	ビジネスメール発信の演習	第29回	就職筆記試験演習③ 一般・SPI
第14回	接客五原則	第30回	就職筆記試験演習④ 時事問題
第15回	まとめ	第31回	まとめ
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験